

4 市民参加こなんんえーやん！ ～京都市に対する提案と市民の皆さんへのメッセージ～

1章から3章にかけて、市民参加の実情やフォーラムの議論の現状を明らかにしてきました。4章では、これらを受け、市民参加のあり方や方向性の提案を私たちのメッセージとして送りたいと思います。

京都市に対する市民参加推進にかかるあり方・方向性の提案

提案その1 形だけではない実効性のある制度に！

(論点1より)

審議会と市民公募委員の関係に見られる課題を検証する中で、「市民参加推進計画」に掲げる市政参加の制度は、着実に広がっているものの、形式的に導入したことによる「制度の空洞化」ともいえる状況を生み出している側面があることが分かりました。「なぜ市民に参加を求めるのか」を今一度見つめ直し、制度の目的や趣旨に沿った的確な運用が図られるよう、市民に対して市政参加を進めるための情報提供やサポートを丁寧に行い、実施結果等についてもきっちりと報告するなど、より市民が参加しやすい実効性のある制度として、改善を図ることが必要だと考えます。

【こなんんえーやん！～委員からのアイデア～】

- ・ 審議会等を傍聴しやすくする環境整備
- ・ 審議会等を傍聴した市民の反応や意見を把握する取組
- ・ 市民公募委員の運用方法と役割を明確に示した手引きや指針の作成
- ・ 市民公募委員数の拡大
- ・ 電子会議室の運営方法の再考と、有効活用に向けたルールづくり
- ・ パブリック・コメントの改善（回答の徹底と分かりやすい回答方法の促進）
- ・ ワークショップ参加者への適切な情報提供と新たな手法開発の研究 など

提案その2 更なる市民参加意識の普及と呼びかけを！

(論点3より)

市民参加を市民の間により浸透させていくためには、更なる市民参加意識の普及と呼びかけが望まれますが、「～べき論」で伝えても、あまり効果的ではありません。市民参加が市民にとって身近なものであり、今後の社会を支える大きな原動力となる「お得なもの」であるということ、市民にわかりやすい事例や語り口を交えて、具体的に伝えていくことが必要です。

【こなんんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・ 様々な形、プロセスがあることをわかりやすく発信する「市民活動事例集」の作成
- ・ 「地域デビューいろは集」(＝志のある人向け)や「若い人のつばやき集」(＝新会員獲得に悩む地域組織の人向け)などの地域での活動に役立つ冊子などの作成

提案その3 **コミュニケーションを創り、深められる場や機会の創出を！**

(論点3、4より)

市民同士や活動組織が連携を進めるうえでは、気軽にコミュニケーションを図ることのできる場や機会が必要であるとともに、育まれたネットワークを大切に広げていくことが重要であり、行政にはその機会や場の創出する役割が期待されています。市民と市民、職員と市民とが語り合い、課題や成果を共有できる機会や場を積極的に持つべきだと考えます。

【こなんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・ 共通の目的を持った市民と市民とが出会える場、紹介し合える場の提供
- ・ 市民と市役所が市政やまちづくりについて気軽に対話できる場の創出
- ・ 志縁組織と地縁組織との双方をつなぎ、また悩みを相談できる窓口の整理
- ・ 市民公募委員が集い、意見交換や勉強を行える場の提供

提案その4 **市民の目線、動線に沿った情報提供・共有を！**

(論点4より)

市民参加を進めるうえでは、行政からの情報提供は不可欠なものです。市民にとっては未だに受け取りにくく、馴染みのないものと受け取られているのが現状です。「情報を取りに来る人を迎える」という受身の情報提供ではなく、市民が日常から立ち寄りやすい施設やイベントで情報を提供するなど、積極的な広報活動や情報提供を行うことが必要です。また、情報提供を行うと同時に、市民との交流を通して市民から情報を収集することも必要です。

【こなんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・ 市政情報の拠点としての図書館の活用
- ・ 審議会やイベントの開催情報、パブリック・コメントの実施状況及びそれぞれの結果を含めた網羅的な情報を発信するポータルサイトの設置

提案その5 **市民の声が的確に把握できる制度の構築を！**

(論点4より)

行政はアンケートやモニター調査で様々な市民の意見や情報を集めています。しかし、その情報をきっちり整理し、「どのような情報を発信すべきか」という視点を持つことが必要です。そのために市民の求めていることをきめ細かく把握するための制度を構築することが求められます。また、収集した情報を庁内で共有し、的確に施策や事業に活かしていくことが必要です。

【こなんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・ 市で行う様々なアンケート調査結果の共有と有効活用
- ・ 出前トークやコールセンターで得た情報の職員間での共有

提案その6 行政が市民活動のサポーターに！

(論点2、5より)

行政には、市政やまちづくりの情報を提供するだけでなく、積極的に市民と接し、地域の情報を熟知しておくことが期待されています。また、市民同士の交流を促進するためにも、行政が果たす役割はとて大きいものがあります。いわば、行政は市民活動の「サポーター」として、その活躍が期待されているのです。そのためには、今まで培われたノウハウや人材を有効活用し、「地域をよくしたい」という積極的な思いや地域の困りごとなどに、丁寧に支援できる体制づくりが大切です。

【こなんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・各区役所にコーディネートしたノウハウを持った職員を配置

提案その7 職員・組織の実効性のある連携を！

(論点5より)

行政には長年培ったノウハウや人材が豊富にあり、個別具体には有効な組織や施設が数多くあるものの、それらが効果的に連携しておらず、未だに縦切り型の「縦割り」との批判があります。行政のスキルを最大限に発揮するためにも、市民参加に対する更なる職員の意識改革を進めるとともに、庁内の情報やスキルを共有することにより、有機的に連携していくことが望まれます。

【こなんえーやん！～フォーラム委員からのアイデア】

- ・庁内で同様の取組や先進事例などの情報・ノウハウの共有

